



文化財学科の卒業研究発表会

文化財学科が卒業研究発表
文化財学科では、三十九人が卒業研究の内容をパネル形式で展示しました。三日には県立美術館ホールで優秀な研究の五人が発表会に臨み、約百五十人の聴講者を前に縄文期の石組炉、中世の城郭、石造文化金工、散村地域保全について熱弁をふるいました。

美の集大成一堂に



卒業生が丹精して制作した色鮮やかな作品に見入る来場者 = 石川県立美術館

美術文化学部卒業制作展

金沢学院大学美術文化学部の第四回卒業研究制作展は三月一日から四日まで、金沢市の石川県立美術館で開かれました。美術工芸、情報デザイン、文化財の三学科と美術文化専攻科の学生合わせて百十三人が美の集大成、研究のさわりを一堂に展示し、同学部の学修レベルの高さをアピールしました。



作品解説に耳を傾ける輪島実業高校の生徒 = 石川県立美術館



沈金を施した漆芸コースの作品

輪島実業高校が見学
初日の会場には、輪島実業高校の生徒十二人が訪れ、絵画、漆芸、陶芸の作品を鑑賞しました。日本画のコーナーでは、専攻科生の山本新司さんが各作品について、制作の狙いなどを解説しました。

美術文化学部美術工芸学科の学生と専攻科生計十六人は、二月二十日から二十六日まで、イタリア研修旅行に出向き、ヨーロッパの歴史と伝統が醸し出すさまざまな美に触れて、今後の学修の参考としました。フィレンツェ、ピサ、ベニスの各地で美術館、紙工房、ガラス工房、斜塔などを訪れました。ポローニャでは、昼食には本場のポロネーゼを堪能しました。



ピサの斜塔の前で記念写真に収まる学生

欧州の伝統美に触れ

美術工芸学科生がイタリア研修

美術工芸学科は、日本画、洋画、陶芸、漆芸の各コースの学生・専攻科生計三十三人が、延べ四十六作品を展示しました。このうち洋画コース生は、同じテーマながら大きさや描いた内容が部分的に違う作品を並べ、来場者は比較して鑑賞する妙を味わっていました。

情報デザイン学科の作品



四十一人がグラフィックデザインやデザインアート、映像、アニメなどを出展し、ユニークな世界を展開しました。

短大初の色彩検定合格者
昨年十一月から十二月にかけて行われたファッショングラフィックデザイン色彩能力検定の1級に、金沢学院短期大学生活文化学科生活デザイン専攻カラー&ビジュアルコースを二年前に卒業した林聡美さん（高岡市の神島リビング勤務）が合格しました。同検定1級は二次試験までであって最終合格率が26%と難易度が高く、本短大生・卒業生では林さんが初めての合格者です。金沢学院大学では、美術文化学部卒業生で、現在金沢学院大学に在籍している萩野佳乃子さんが四年在学時に合格しています。



市民生活に歌舞伎を浸透させる意義を説きました。

歌舞伎シンポに石田学長
金沢学院大学・短期大学の石田寛人学長は二月二十四日、県小松芸術劇場うららで開かれた「ゆうちよシンポジウム・歌舞伎のまち小松」にパネリストとして登壇しました。写真左。小松市出身の石田学長は、自ら脚本を書き上げる歌舞伎通です。シンポでは、歌舞伎を軸とした街づくりの方策について、坂田藤十郎さんや写真家の織作峰子さんらと意見を話し合い、市民生活に歌舞伎を浸透させる意義を説きました。

発行・広報室